



平成 25 年度 JICA 環インド洋経済圏貿易投資促進研修 - JICA Facilitating Trade and Investment in Indian Ocean-Rim Economic Region

研修期間：平成 25 年 8 月 5 日～8 月 23 日（3 週間）

研修場所：神戸/東京

研修内容：環インド洋経済圏のアフリカ・アジア諸国における貿易投資促進に関する講義/視察

参加研修員：8 名（バングラデシュ 2、エチオピア 2、ケニア 1、タンザニア 2、ザンビア 1）



研修最終日、全員が満面の笑顔で日本での研修を終えました。

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受け、「環インド洋経済圏貿易投資促進研修」を実施しました。

環インド洋経済圏とは、オセアニア・東南アジア・南アジア・中近東・アフリカを含む経済圏のことであり、本研修は、特にアフリカ諸国とアジア諸国の経済関係が貿易・投資という観点から強化されることを目的として、昨年度から引き続いて今年度が 2 回目の実施となりました。今年度は、バングラデシュ・エチオピア・ケニア・タンザニア・ザンビアの 5 か国から、貿易振興及び投資促進を担当する中央政府職員 8 名が

来日して、神戸及び東京で 3 週間の研修に参加しました。

3 週間のプログラムの中では、貿易・投資促進における重要な概念に関する講義を軸として、貿易投資協定と国際動向、経済発展の弊害となりうる事由とその背景などについて学び、日本ならびに他のアジア諸国における、経済発展の過程に見られた産業政策の成功事例・失敗事例から教訓を得ました。また、今年度からの試みとして、海外投資を行っている、もしくはその準備を進めている日本国内の企業担当者との交流ワークショップを実施し、投資を行う側である企業から、経験則にのっとった質問や、貿易・投資相手国に求める政策や戦略などについて意見が出されました。

また、今年度は「JICA グローバル人材育成プログラム」から神戸大学国際協力研究科修士課程の大学院生 1 名が、研修員とともに講義やディスカッションに参加しました。また、講義参加以外にも、日本の経済・産業の概要や歴史、そして中小企業振興のための政策や法制度などについて、プレゼンテーションを行うなど、日本人学生の参加が、研修員にとっても有意義な交流となりました。



～研修を振り返って～

今年 6 月、横浜市で第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）が開催されました。この会議は、アフリカの開発をテーマとして、1993 年から 5 年に 1 回開かれており、日本国とアフリカ諸国のみならず、他のアジア諸国や国際機関など、様々な国・団体が参加する開かれた国際会議です。そして、この機会を受け、アフリカ産品やビジネス情報を紹介する公式サイドイベント（アフリカン・フェア 2013 主催：JETRO）が開催されるなど、最近では日本の民間セクターからも、高い経済成長率を誇るアフリカ諸国への事業展開に、大きな関心が寄せられています。

このような経済発展の好機を、どこまで自国の貧困削減のために生かすことができるのか。そして、中国・インドの著しい経済発展を背景として、国際経済に大きな影響力を持つようになったアジア諸国の成長にともない、時々刻々と変化しているインド洋を取り巻く環境を、自国の経済発展にどう利用していけるのか。昨年から続く本研修では、アジアからも研修員が参加し、それぞれが自国に寄与する政策立案の糸口を見いだせるよう、またアジア・アフリカの両地域における国同士の協力関係が構築されるよう、講義のほかに演習・視察など様々なプログラムを実施しています。



ワークショップでは、企業担当者と意見を交わしながら、自国産業が抱える現状の課題整理が求められました。

特に、今年の研修では、民間企業の海外事業担当者及びその経験者からのご協力を得て、民間セクターの視点を取り入れたプログラムに一層力を入れ、研修の中盤では、開発途上国との貿易及び外国直接投資について、民間企業担当者を招いたワークショップを行いました。ワークショップの終盤には、総括として、「自国との貿易取引や事業展開において、起こりうるリスクと、それに対する行政の対応や、リスク発生を防ぐための政策の説明を含めるなどすれば、より説得力のあるプレゼンテーションとなること」や、「自国の現状を正確に把握し、企業側の求める情報を発信することが、企業が直接投資を考える上で非常に有益となること」など、実態に即したアドバイスが与えられ、それぞれの母国では、あまり民間企業と接する機会が多くない研修員にとって、新たな視点からアイデアを得た貴重な時間となったようです。

一方で、研修員は、この3週間という短い期間の中で、研修の主な実施場所である神戸市の土地の魅力にも深く感銘を受けていました。神戸市中央区の旧居留地や北野異人館街をめぐり、摩耶山のケーブルカーに乗車して、元々は西欧の技術・文化を学び、これに追いつき追い抜こうと、試行錯誤を重ね発展してきた、日本の経済・産業の歴史に触れました。また、神戸港の視察では、コンテナターミナルや港内を行き来する船舶などのほか、港から奥に広がる、神戸の街並と六甲の山々を、海上から眺めました。山と海に囲まれた美しい風景と、洗練された過ごしやすい雰囲気によって、研修を終えるころには、「神戸はまるで、私たちのふるさとのようだった。研修期間中にここを離れていた間は、神戸に帰りたくと常に思っていたし、ここに戻るととても心が休まる。」と、研修員は皆、この神戸の地に深い愛着を感じるようになっていました。



神戸港視察では、(株)上組のコンテナターミナルを訪問し、最先端の設備を前に、驚きの声が漏れていました。

日本を訪れ、日本で出会ったアジアとアフリカの研修員は、それぞれに異なる国の特徴を持ちながらも、共通の問題に対して、互いに意見を交わし合い、「国が違って、共通する問題点が存在し、どの国も似通った政策がとられがちであること」や「その中で、独自の色を打ち出して国際競争力を高める必要があること」を、実感とともに学ぶことができました。それぞれの帰国後も、この研修で生まれた新たな問題意識や、日本を含む諸外国の知見や教訓を活かし、自国の経済や産業発展のために力を尽くしてくれることを確信しています。

研修担当：曾輪 沙耶加

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導者：神戸大学大学院国際協力研究科 高橋 基樹 教授

講義/視察先：神戸大学/同志社大学/東京大学/九州大学/JICA 本部

歴史街道推進協議会/アジア経済研究所

デベックス日本支社/KT1 株式会社/太陽 ASG 有限責任監査法人

新洋技研工業株式会社/株式会社西野工務店/株式会社ジー・イー・エス

有限会社サミット・ラボ/中川産業株式会社

神戸市みなと総局/神戸港埠頭株式会社/株式会社上組

【順不同】



～研修員の声『神戸を訪れて（要約）』～

Participant's Voice 『VISIT TO KOBE』



国名：バングラデシュ

名前：Mr. A.H.M Ahsan

所属：通商貿易省 自由貿易協定部 副部長

It was my absolute delight to be in Kobe and attend the training program on Facilitating Trade and Investment in Indian Ocean-Rim Economic Region. During my short stay in Kobe I had the opportunity to know about the history and culture of Japan in general and Kobe city in particular. Apart from attending the lectures I tried to explore the city and surroundings as much as possible. I learned that Japan has a long and cherished history and rich cultural heritage and the main essence of Japanese culture is simplicity and modesty. I basically knew Kobe by its port and by the earthquake of 1995. But the scenic beauty of Kobe – mountain on one side and sea on the other- really impressed me. It is also amazing how this city rebuilds itself from the devastation of great Hanshin earthquake within a shortest period of time. The sightseeing tour of Mt Maya, old foreigners settlement area, Kitano and sea cruise really helped me to understand the history, culture, economy and landscape of Kobe. However the view from our rooms of JICA center of the Kobe bay deserves the 5 star rating.

The training program was very well designed as it was a mix of lectures and visits. I enjoyed most of the classes and visits. What I learnt in the seminar room, had the opportunity to see the practical situation such as Kaizen, logistics, port facilities etc. and I must mention that the technique of using 'boards and sticker' for the Project Design Matrix workshop was really fantastic. Finally I must recognize that it was the persons involved in organizing the program and participants (friends) from other countries made my experiences in Kobe enjoyable and memorable. I wish I could come back to Kobe again.

この研修で、神戸を訪れることができたのは私にとって大きな喜びでした。この短い滞在の間に、日本の、特に神戸の歴史や文化に触れ、講義のプログラム以外にも、可能な限り街の様々なところを探索しました。

そこで私が学んだのは、日本とは尊ぶべき長い歴史と、豊富な文化的遺産を持ち、そこには主に「質素」「慎み深さ」といった要素があるということです。私がかつとも神戸について知っていたことと言えば、港と1995年の阪神淡路大震災だけでした。しかし、山と海に囲まれたこの街の風景の美しさは、実に心を打つものでした。そして、阪神大震災の大きな被害から、こんなに短期間で復興を成し遂げたことにも、とても驚きました。

研修で、摩耶山や北野異人館街、神戸港内湾を船で回れたことで、この街の歴史や文化、経済、そして風土を理解することができたと思います。

また、研修プログラムに盛り込まれた様々な講義や視察について、例えばカイゼンや物流システムなど、実際に取り入れられ、運用されている現場を見て、楽しんで学ぶことができました。

最後に、確信を持って言えること、それはこの研修に関わり集まった人々（仲間）の存在が、この滞在を充実した思い出深いものにしてくれたということです。

また、この神戸に戻ってこられることを願っています。



国名：エチオピア

名前：Ms. MULATU Lidya Gizachew

所属：エチオピア投資庁 政策研究課 チームリーダー

Kobe city was very impressive for me, the city which is gifted for the major natural tourist attractions having beautiful surrounding mountain and sea inside the city. People of the city are also using those natural resources for both tourist attraction and business development purpose. Because Kobe, is also the main Japanese international business center using port of Kobe. By the way the tour that we have made inside the Kobe port through boat and the time that I had when we climb to Mount Maya through cable car were very interesting for me. Those times are times that I understand I will never forget Kobe city in my life.

The visit that we made in KAMIGUMI CO. LTD. which is the logistic service provider company and NAKAGAWA INDUSTRY, which is a steel coil processing company, helps me to understand that Japanese peoples are hardworking individuals. I can understand that all this surprising development of the Kobe city as well as Japan as a whole is the fruit of those types of strong and hardworking individuals.

In Kobe, both cultural and historical heritages are also managed properly. The visit that we made around the kitano area looking foreigners' residences shows that how much Kobe city is trying to keep its historical heritages. In general Kobe city is very impressive. I cannot list out its beauty with in limited time and space. The other thing that I will never forget and I want to adapt in my own society is the hospitality and respect of the peoples with each other as well as for foreigners. I had attended the Japanese tea ceremony it is a great demonstration to look how Japanese peoples respect each other.

Last but not least, I am very much impressed with Japanese punctuality. I hope I will practice it in my country.

Arigato gozaimasu.

私は、美しい山と海に囲まれ、自然の観光資源に恵まれた神戸市に、大変感銘を受けました。そして、ここの人々は、神戸港を拠点として、この条件を観光資源だけではなく経済振興にも上手く利用しています。

この研修で、神戸港を船上から見学し、ケーブルカーで摩耶山に上ったことは、私にとって非常に興味深い体験でした。この時間を私は生涯忘れないだろうと思います。

株式会社上組の港湾物流施設や、中川産業株式会社の鋼材加工工場を訪問し、日本企業で働く人々一人一人が勤勉であることがわかりました。こういった国民一人一人の働きで生み出される強みが、日本の驚くべき経済発展を支えていることに気付くことができました。

北野異人館を訪れた際には、明治時代の外国人居住者の暮らしを見ることができ、文化的・歴史的遺産がきちんと管理されていることに感銘を受けました。今回の限られた時間だけでは、神戸の魅力すべてを語ることはできません。ただ、この街の人々の、外国人に対しても思いやりを持って相手を敬う姿勢を、きっと忘れる事はないでしょうし、自国でも広げていきたいと思っています。日本の茶道を体験した際には、日本の人々が互いに尊敬し合う心を、その所作の中に見ることができました。

そして最後に、日本人の時間を守る几帳面さは、とても印象深いものでした。帰国してからも、続けていきたいと思っています。

ありがとうございます。